

## 平成21年度 第2回目 東三河ふるさと公園観察会記録

1. 事業名	東三河ふるさと公園 第38回自然観察会
2. 日時	平成21年5月17日(日) 晴れ 09:30~11:50
3. 場所	東三河ふるさと公園 豊川市御油町
4. 参加者	天野、岡本(強)、梶野、高橋、中島(国)、中島(芳)、間瀬、(7名)
5. 一般参加者	7名
6. 観察のコンセプト	・ ・「トンボの羽化を観察しよう」
7. 観察行程	09:20: 会員集合 受付、放送その他の庶務は公園管理者が行う。 09:30: 観察会開始 ・公園管理事務所 挨拶 ・梶野会長挨拶 09:35: トンボの羽化について(写真により解説) 09:40: ヤマアカガエルの声を聞こう(遮蔽木を取り除いてもなかなか姿を見られない。) ホソトビケラの観察 09:50: 周辺の森を見てみよう。(樹冠の色が濃くなってきた。) 09:55: 樹木の花を観察しよう(シイ、エゴノキ、ゴンズイ、リョウブ、ウツギ等) 10:10: スミレの閉鎖花について 10:15: ヒキガエルの幼体が降雨の中を山へ移動するのを観察 10:25: オオミズアオの観察 10:35: 池の中を観察しよう。 10:45: トンボの羽化を観察(欄干で羽化しているオオヤマトンボの羽化を観察) 11:10: 水辺の花の観察(カキツバタ、ノハナショウブ、キショウブ)アヤメは乾燥したところに生える。「アヤメと水」のイメージは間違い 11:30: アンケート 11:35: 観察会解散 11:40: 連絡及び反省会
8. 会員及び公園管理者から一言概要	・降雨時の観察会としては、この位(一般参加者7人)の方が、傘をさしていても説明者の周辺に集まれて、良かったのではないかと。 ・トンボの羽化を観察できてよかった。(トンボの羽化等は見ようとしても、その瞬間を観察することは困難である。)
9. 確認できた野鳥類	メジロ、シジュウカラ、コゲラ、トビ、ハシブトカラス、カワラヒワ、ヒヨドリ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、ムクドリ、ホオジロ、ヤブサメ、ウゲイス

**10. 観察できた植物**

アサザ、アザミ、コバノガマズミ、ガマズ、ハルシオン、ヒメシオン、ギシギシ、ツクバネウツギ、コックバネウツギ、カキツバタ、キショウブ、ノハナショウブ、シナノガキ、エゴノキ、ネジキ、ナツハゼ、モチツツジ、シイの花

**11. 確認できた昆虫その他**



オオミズアオ

コヤマトンボ

シオカラトンボの幼虫



シオカラトンボの♀の産卵

シオカラトンボ♂

ニシカワトンボ

アメンボ

**12. 植物の不思議**

1) コックバネウツギとツクバネウツギについて

ふるさと公園内で2種類のツクバネウツギが見られます。

果実の先端にガク片が残り、その形が羽根付きの羽根（ツクバネ（つき羽根⇒つくばね））に似ていることからこの名前がつけました。宮路山ではコックバネウツギが多く見れます。



ガク片が2枚のコックバネウツギ



ガク片が5枚ノツクバネウツギ

2) カキツバタとアヤメとノハナショウブについて

カキツバタは湿った草原などに生え、草たけは40～80cmで、葉の幅は広く3cm近くあり主脈はない。カキツバタは「書き付け花」がなまったもので、昔はこの花を布に擦りつけ模様を書く染料として使われたといわれています。

アヤメは乾燥した野山に自生し、時に大群落となり、そのような場所は「アヤメ平」の名が付いている所があります。花の大きな花卉（外花被）にある網目模様により「アヤメ」となったとも言われています。

ノハナショウブは菖蒲の仲間ではなくアヤメ科の植物です。花がカキツバタとよく似ていますが、葉の主脈がはっきり見られたため区分出来ます。



ノハナショウブ



カキツバタ

1.3. コヤマトンボ (A) の羽化の観察

10時45分頃観察を開始し、この時点で触手事故があり、逆立ち姿勢から急遽抜け出したため、右中足を欠損した。降雨と強風という羽化には悪条件の中、5本の足で抜け殻に必死につかまり翅を伸ばしていく。11時30分ころ、羽根や胴体は伸長途中で、色も白っぽい。途中1時間ほど昼食のため観察を休止した。午後1時30分翅も透明となり胴体も伸長した。午後3時ころ飛翔可能な状態まで成熟した。降雨が激しく、まだ飛び立たないであろうと判断し、コーヒープレークのため現地を離れる。午後3時45分に現地に訪れるとすでに姿がなかった。この間にたぶん飛翔したものと思われる。



10時45分頃



同左時刻に触手  
触手により右中足欠損



11時頃



11時30分頃



13時30分頃



13時45分頃



14時45分頃



15時頃



抜け殻

### 羽化に失敗した？例

午前9時30分頃から観察していたコヤマトンボとウチワヤンマについて

池の東側の草（水面より60cmほど上）で羽化したコヤマトンボ（B）は降雨と強風で翅が損傷したか、草が揺れ翅が他の物に接触し損傷したかは不明であるが、午後4時現在でも朝の状態であった。石垣に這いあがったウチワヤンマについても、羽化する様子が見られなかった。午後4時30分観察打ち切り帰宅した。翌日午前9時に再度現地を訪れたが、コヤマトンボと抜け殻、ウチワヤンマのヤゴの姿は見られなかった。当日は夜間も降雨と強風のため羽化に失敗し池の中に落ちてしまったのかも知れない。無事羽化を終え、成虫となり大空を悠々と飛翔するのは容易なことではないようである。



翅が伸び切らず飛べないコヤマトンボ

羽化しないウチワヤンマ

ウチワヤンマの抜け殻

### 14. アズマヒキガエルの水辺離れについて

水辺に産卵されたアズマヒキガエルの卵はオタマジャクシになり、手足が生えて鰓呼吸から肺呼吸に変化し小さなカエルとなります。小さなカエルは生息場所である森に帰ります。小さなカエルは雨が降るのを待ち（晴天時に動き回ると乾燥で干からびてしまう恐れがある。）次々と遙かなる森を目指し懸命に移動していく姿が観察できた。



降雨の中移動する今年生まれたカエル



森の中で見かけた親カエル（H21.5.11 夕刻）  
（葦毛湿原周辺で撮影）

15、観察写真



アザミ



ガマズミ



アサザ



コツクバネウツギ



ナツハゼ



ネジキ



ナワシロイチゴ



モチツツジ



ニワゼキショ



ムラサキサギゴケ



ヒルガオ



ハナミョウガ



ニセアカシヤ





周辺の森が美しい



法面に侵入した園芸植物

観察会の状況



降雨のため室内で開会セレモニー

アカガエルの観察

ホソトビケラの観察



樹木の花を観察



水辺の観察

備考

- ・あいにくの降雨、参加者も少なく7名（一般参加者）であった。